

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 8月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	0170501035		
法人名	社会福祉法人 南静会		
事業所名	グループホーム白石の郷		
所在地	北海道札幌市白石区本郷通3丁目南1-16 (電話) 011-864-5861		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年6月27日	評価確定日	平成20年8月28日

【情報提供票より】(平成20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	12年	10月	10日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	16 人	常勤	15人,	非常勤 1人, 常勤換算 15.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	3階建ての	2~3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000~40,000 円	その他の経費(月額)	15,100~20,100 円	
敷金	有(34,000~40,000 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,400 円	

(4) 利用者の概要(平成20年5月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2		5 名	
要介護3	6 名	要介護4		3 名	
要介護5	2 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 84.3 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	よつばクリニック、札幌歯科口腔外科クリニック、西円山病院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、平成12年に開設し、公園や住宅地に囲まれた閑静な立地条件の下、利用者が落ち着いて生き生きと生活できるよう、努力や工夫を重ねて、現在に至っている。職員は、利用者の生活に寄り添い、馴染みの関係を築いた上で、友人や家族のように喜怒哀楽を共にしながら、必要な支援を行っている。母体である老人保健施設や、居宅介護支援事業所、デイサービスセンターやショートステイセンター等を併設しており、必要に応じて連携を図るなど、関連事業所の多様な機能を活かした運営を行っている。公園の清掃活動を継続して実施するなど、地域に根ざした事業所として、更なる質の向上が期待できる。

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	災害対策については、近隣に在住の利用者家族の協力の下、緊急時の連絡網を作成している。職員が手薄になる夜間の災害時などにも、迅速に対応する体制を整えている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者はじめ、全ての職員で自己評価に取り組み、日ごろのサービスを振り返るとともに、今後、更に質の高いサービスを提供しようとする前向きな姿勢を持っている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催しており、町内会の代表・地域包括支援センター職員・利用者の家族が参加している。特に家族の参加が多く、事業所の運営について活発な意見交換を行っている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に、苦情相談窓口や苦情の受付機関を明記しているとともに、事業所内にも相談窓口等を掲示している。また、運営推進会議を、家族からの意見を聞く重要な機会として、有効に活用している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣接する公園の清掃活動に、継続して取り組んでおり、地域交流の機会としている。また、近隣の小学校の運動会や学芸会への見学を通じて交流を深めており、小学生が作成したカレンダーなどを共有スペースに飾るなど、日ごろからの自然な連携・交流を図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作り、パンフレットや重要事項説明書に掲載するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示しており、「その人らしい生活」が地域の中で実現できるよう、日々の業務に活かしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、理念を掲載したカードを日ごろから所持し、理念を共有しながら日々の業務にあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する公園での清掃活動を数年来継続しており、地域との良好な関係を築く役割を果たしている。また、近隣の小学校の運動会や学芸会に見学に行く機会を持つなど、地域との交流を積極的に推進している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員が一体となって、自己評価に取り組み、日ごろのサービスを振り返る機会と捉えている。また、外部評価に対しても協力的に対応するなど、その意義を十分に理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催し、家族の意見をサービスの質の向上に活かす機会としている。今後は、さらに町内会関係者の参加人数を検討するなどし、地域密着型サービスとして、地域住民との意見交換を活発に行うことが望まれる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、各種会議に出席し、必要に応じて担当者と連携を取りながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	緊急時でない場合は、家族が面会に来た際に、近況等の報告をする機会を設けている。また、金銭管理については、毎月の使用内容を報告し、家族の確認を受けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の苦情受付担当者や、第三者による苦情受付機関を重要事項説明書に明示し、家族等が、意見や不満・苦情を申し立てする方法を明確にしている。また、家族等の意見に対して、迅速に対応する体制を有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職に際しては、新たに異動してくる職員との雇用期間を重ね、十分な引継ぎ等を実施することで、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者・管理者は、職員研修の重要性を十分に理解し、年間研修計画を作成し、それぞれの職員の経験年数や習熟度に応じて、事業所内外の研修を受ける機会を設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市内の管理者会議に毎回出席していると同時に、職員は、北海道グループホーム協議会主催の研修会等に参加するなどし、同業者との交流を通じて、サービスの質の向上を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心感を持てるよう、家族と相談を密にとりながら、サービスの利用を開始している。系列の事業所の利用を経ての利用開始に際しては、系列事業所の職員から、必要な情報を得るなどの工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者と一緒に花壇に出た際には、花の名前などを教えてもらったり、調理経験の少ない職員が食事の準備をする際に、利用者から調理方法を教わるなど、一方的に介助するのではなく、支えあう関係を構築している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや、生活のスタイルを把握し、意向に沿った生活の提供に努めている。また、職員は、情報を共有し、日々のケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの話や、その他の情報・毎日の様子観察の経過などを基に、アセスメントを行い、スタッフミーティングにて、全ての職員の意見を聞いた上で、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っており、本人の心身に変化が生じたり、日常生活で新たな問題が発生した場合は、そのつど見直しを行い、本人や家族に説明している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体施設である老人保健施設のほか、併設事業所である居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション・デイサービスセンターと、必要に応じて連携を図るなど、多機能性を活かした支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望により、かかりつけ医や協力医療機関への受診や往診が受けられるよう、必要な支援を行っている。自分の体調等を訴えられない利用者の状態を把握するために、日ごろから、医療機関との信頼関係を作るよう努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の希望を十分に聞いた上で、重度化した場合や終末期の対応を決定している。医療が必要になった場合や、口から食事が摂れなくなった場合でも、状況等を詳しく説明した上で、安心して過ごせる場所を見つめられるよう常時支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	母体法人が、全事業所において個人情報保護を徹底するとともに、職員全体にも方針を徹底し、当事業所としても厳重に管理している。また、日常の介護場面でも、プライバシーや尊厳を損なわないような、声掛けや対応に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活歴や価値観を尊重し、その人らしい自由で穏やかな生活が送れるよう、支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、それぞれ持っている能力に応じて、調理や片付けなどに参加し、また、一緒に台所に立ってない利用者も、献立を考えたり手の届く範囲でテーブルを拭くなど、食事への楽しみや意欲が維持できるよう支援している。外食や屋外でのバーベキューなどの、楽しみも取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望に応じて、毎日でも入浴を楽しめるよう、必要な支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け・掃除等の家事は、利用者それぞれの能力や好みに応じて、役割が持てるよう支援している。また、歌集や週刊誌・DVD等を用意し、興味のあるものを楽しめるよう配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の公園への散歩を兼ねた清掃活動など、日常的に外出の支援を行うとともに、家族の協力を得ながら、バスドライブや、よさこいソーラン祭りの見学、外食行事などを実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が、鍵をかけない介護の重要性を理解し、実践している。なお、母体施設の事業拡大に伴い、正面玄関をオートロック式としており、保安上必要な側面もあるが、施設的な雰囲気を払拭するための工夫について、今後の努力を期待する。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設事業所とも協力しながら、避難訓練や緊急連絡網訓練等を、毎年実施している。近隣に在住している家族の協力を得て、緊急通報連絡網を作成するなど、夜間の防災体制についても整えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分摂取量を記録し、必要量を確保しているかどうかを常時確認するとともに、個々の身体状況等に合わせ、補食を用意したり、食事形態やメニューを変更するなど、細やかな取り組みをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭から十分な採光が得られるよう工夫しており、共有空間には、季節感を採り入れた飾り付けや、行事に出掛けた時の写真などを飾っている。テレビの音も、耳障りにならない程度の音量に抑えるなど、利用者が居心地よく過ごせるよう十分配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が使い慣れた家具を配置し、それぞれの利用者の好みに応じて、心地よく生活できるように好きなものを身近に置くなど配慮し、快適な生活空間となっている。		

※  は、重点項目。